

2002年5月9日

各 位

三井化学株式会社

### 新規浸透移行性殺虫剤スタークル/アルバリン剤の発売について

当社(社長 中西宏幸)は、幅広い殺虫スペクトラムと優れた浸透移行性を特長とする新規化合物ジノテフランを有効成分とする殺虫剤「スタークル」/「アルバリン」(試験名:MTI-446)を開発してまいりましたが、この度本年4月24日付けの農薬登録取得を受け、5月27日より発売することを予定しております。

スタークル/アルバリン剤の作物栽培上の長所は次の通りです。

- (1) 幅広い殺虫スペクトラムを有する。
- (2) 水稻、野菜、果樹の様々な害虫を防除できる。
- (3) 作物への薬害も殆ど無く安心して使える
- (4) 高い浸透移行性を有する事から、茎葉散布、土壌処理、育苗箱処理、湛水(水田灌水状態)散布等、何れの処理方法でも速やかに効果を発揮し、十分な残効を示す。

また、本剤は塩素・臭素等のハロゲン族元素、且つベンゼン環を含まない全く新しいタイプの化合物で、人、生態系及び環境に対する負荷が低く、安全性が高い殺虫剤です。

- (1) 哺乳類に対する安全性が高い。
- (2) 魚介類、鳥類に対する安全性が高い。
- (3) 主要害虫の天敵であるクモ類、カブリダニに影響が少ない。
- (4) 環境中で速やかに分解される。

登録内容は別表に示すとおり、4製剤(箱粒剤、粉剤DL、粒剤、顆粒水溶剤)で水稻、なす、きゅうり、トマト、キャベツ、メロン、だいこん、りんご、かんきつ(みかんを除く)、もも、うめ、なし、ぶどうの13作物37適用です。今後、更に開発を進め、その他の作物にも順次適用拡大していく予定であり、2003年初頭には、ブロッコリー、いちご、ピーマン、すいか、はくさい、ねぎ、ばれいしょ、レタス、てんさい、つつじ、きく、ガーベラ、かき、ちゃの新規14作物、54適用に対し適用申請を企図しております。また、その優れた作物安全性から可能となった、野菜での粒剤の生育期株元処理(作物の株元に散粒)、顆粒水溶剤のセルトレー灌注(作物でなく土壌を中心に散布)処理等、様々な施用方法での適用拡大も進めていきます。

各製剤は三井化学で製造を行います。製剤の販売は次の通りです。

- (1) 「スタークル」の商品名で北興化学・北海三共(北海道を中心に)・サンケイ化学(九州を中心に)を通じ系統ルート(全農を中心とする販売ルート)で販売。
- (2) 同じく「スタークル」の商品名で三井東圧農薬を通じ系統・商系ルート(卸店を中心とする販売ルート)での販売。但し商系の箱粒剤・粉剤DLは「アルバリン」の商品名で販売。
- (3) 「アルバリン」の商品名でアグロ カネショウを通じ商系で販売。

なお、本年4月26日付けで、混合剤としても、育苗箱専用の長期持続型殺虫殺菌剤「Dr.オリゼスタークル箱粒剤」、本田の殺虫殺菌剤「オリブライトスタークル1キロ粒剤」が農薬登録を取得しており、これらは15農薬年度(平成14年10月～平成15年9月)からの販売を予定しております。

「Dr.オリゼスタークル箱粒剤」の販売は北興化学を通じ系統ルート、明治製菓を通じ商系ルート、三井東圧農薬を通じ系統・商系ルートでの販売となります。

売上目標については、2003年度で20億円を予定していますが、更に拡販を進めるとともに適用等の拡大を図っていくことで2007年度には100億円を目指しています。

また、農薬登録の剤名、適用作物、適用病害虫、使用方法は別紙のとおりです。

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

三井化学株式会社      IR・広報室長      須田 桂 二      03 - 3592 - 4060

## 農薬登録一覧表

## 1. 農薬の名称

## (1) 殺虫剤

登録番号	農薬の名称	登録会社
20806	アルバリン粒剤	アグロ カネショウ株式会社
20809	アルバリン箱粒剤	
20812	アルバリン顆粒水溶剤	
20815	アルバリン粉剤DL	
20807	ホクコースタークル粒剤	北興化学工業株式会社
20810	ホクコースタークル箱粒剤	
20813	ホクコースタークル顆粒水溶剤	
20816	ホクコースタークル粉剤DL	
20805	スタークル粒剤	三井化学株式会社
20808	スタークル箱粒剤	
20811	スタークル顆粒水溶剤	
20814	スタークル粉剤DL	

## (2) 殺虫殺菌剤(混合剤)

登録番号	農薬の名称	登録会社
20831	オリブライトスタークル1キロ粒剤	三井化学株式会社
20832	アベンティス・オリブライトスタークル 1キロ粒剤	アベンティス クロップサイエンス シオノギ 株式会社
20833	Dr. オリゼスタークル箱粒剤	三井化学株式会社
20834	明治Dr. オリゼスタークル箱粒剤	明治製菓株式会社
20835	ホクコーDr. オリゼスタークル箱粒剤	北興化学工業株式会社

2. 登録内容の抜粋

商品名:スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、ホクコースタークル顆粒水溶剤

農林水産省農薬登録番号: 三井化学株式会社

第20811号

アグロ カネショウ株式会社(アルバリン顆粒水溶剤)

第20812号

北興化学工業株式会社

第20813号

種 類 名:ジノテフラン水溶剤

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール 当り散布 液量	使用時期	本剤のみ を使用す る場合 使用回数	ジノテフラ ンを含む 農薬の総 使用回数	使用 方法
なす	アブラムシ類	3000倍	150~ 300L	収穫前日 まで	2回以内	3回以内 (定植後 は2回以 内)	散布
トマト	コナジラミ類						
きゅうり	アブラムシ類	2000~ 3000倍					
	ミナミキロアザミウマ シルバーリーフコナジラ ミ	2000倍	収穫3日 前まで				
キャベツ	アブラムシ類		200~ 700L	収穫7日 前まで		2回以内	
りんご	アブラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ						
なし	アブラムシ類						
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ						
うめ	アブラムシ類	1000倍	2000倍				
ぶどう	チャノキロアザミウマ						
かんきつ (みかん を除く)	コナカイガラムシ類	2000倍	2000倍				
	アブラムシ類						

使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用を避けること。
- (3) 桑に付着する恐れがある地域では使用しないこと。

- (4)ミツバチを放飼している地域では使用を避けること。  
 (5)空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。  
 (6)本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

商品名:スタークル粒剤、アルバリン粒剤、ホクコースタークル粒剤

農林水産省農薬登録番号:三井化学株式会社 第20805号  
 アグロ カネショウ株式会社(アルバリン粒剤) 第20806号  
 北興化学工業株式会社 第20807号

種 類 名:ジノテフラン粒剤

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	使用方法		
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ (第1世代) イネドロオイムシ	3kg / 10a	収穫 7日前 まで	1回	4回以内 (本田期は 3回以内)	散布		
なす	アブラムシ類	1g / 株	定植時		3回以内 (定植後は 2回以内)	植穴土壌混 和		
	ミナミキイロアザミウマ	2g / 株						
トマト	アブラムシ類	1g / 株						
	コナジラミ類	2g / 株						
きゅうり	マメハモグリバエ	2g / 株						
	アブラムシ類	1~2g / 株						
メロン	シルバーリーフコナジラミ	2g / 株						
	アブラムシ類	1g / 株						
だいこん	キスジノミハムシ	6kg / 10a					播種時	1回
キャベツ	アブラムシ類	2g / 株		定植時			3回以内 (定植後は 2回以内)	植穴土壌混 和
	コナガ アオムシ	3g / 株						

使用上の注意事項

- (1) 水稻に使用する場合には、湛水状態(3cm程度)で田面に均一に散布し、4~5日間は湛水状態を保ち落水やかけ流しをしないこと。

- (2) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (3) 桑に付着する恐れがある地域では使用しないこと。
- (4) ミツバチを放飼している地域では使用を避けること。
- (5) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (6) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

商品名：スタークル粉剤DL、アルバリン粉剤DL、ホクコースタークル粉剤DL

農林水産省農薬登録番号：三井化学株式会社	第20814号
アグロ カネショウ株式会社(アルバリン粉剤DL)	第20815号
北興化学工業株式会社	第20816号

種 類 名：ジノテフラン粉剤

#### 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用害虫名	10アール 当り 使用量	使用時期	本剤のみ を使用す る場合の 使用回数	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数	使用 方法
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イナゴ類 イネドロオイムシ	3kg	収穫7日 前まで	3回以内	4回以内 (本田期は3回 以内)	散布

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しばって散布すること。
- (2) 桑に付着する恐れがある地域では使用しないこと。
- (3) ミツバチを放飼している地域では使用を避けること。
- (4) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (5) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

商品名:スタークル箱粒剤、アルバリン箱粒剤、ホクコースタークル箱粒剤

農林水産省農薬登録番号:三井化学株式会社

第20808号

アグロ カネショウ株式会社(アルバリン箱粒剤)

第20809号

北興化学工業株式会社

第20810号

種 類 名:ジノテフラン粒剤

#### 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	育苗箱(30×60×3cm) 使用土壌約5L 1箱当り50g	移植3日前 ~移植当日	1回	4回以内 (本田期は3回以内)	本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布する

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。
- (2) 本剤は水面に浮きやすいので、処理した育苗箱を移植前に田面水中に浸さないこと。
- (3) 誤って過剰に使用すると葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守すること。
- (4) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (5) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

商品名：オリブライトスタークル1キロ粒剤、アベンティス・オリブライトスタークル1キロ粒剤

農林水産省農薬登録番号：三井化学株式会社

第20831号

アベンティス クロップサイエンス シオノギ

第20832号

種 類 名：ジノテフラン・メトミノストロピン粒剤

#### 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	メトミノストロピンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ツマグロヨコバイ ウンカ類	1kg / 10a	葉いもち初発 10日前～ 10日後 (収穫60日前 まで)	1回	散布	4回以内 (本田期は 3回以内)	1回

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤は、葉いもちの初発10日前～10日後の散布で、葉いもちに有効であり、又、穂いもちに対する効果も期待できるが、穂いもちの多発が予想される場合には、穂いもち対象剤を併用することが望ましい。
- (2) 散布に当っては、湛水状態(水深3～5cm)で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間は落水及びかけ流しをせず、湛水状態を保ち、田面を露出させないこと。
- (3) 本剤の使用により、稲の葉に褐点を生じる場合があるので、所定の使用量を厳守するとともに、次の事項を十分注意すること。  
葉いもちの初発生の遅い地域又は早生種に対しては、本剤の使用時期のなるべく早い時期(出穂30日前頃まで)に使用することが望ましい。  
急激な温度上昇がおこる気象条件下では、葉に褐点を生じやすいので、フェーン現象等が予想される場合には使用しないこと。
- (4) 桑に付着する恐れがある地域では使用しないこと。
- (5) ミツバチを放飼している地域では使用を避けること。
- (6) 本剤を散布した水田の田面水を他作物の灌水に用いないこと。
- (7) 散布に使用した器具、容器の洗浄水及び空袋等は河川等に流さず、容器、空袋は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

(8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

商品名：Dr. オリゼスタークル箱粒剤、明治Dr. オリゼスタークル箱粒剤、  
ホクコースタークル箱粒剤

農林水産省農薬登録番号：三井化学株式会社	第20833号
明治製菓株式会社	第20834号
北興化学工業株式会社	第20835号
種 類 名：ジノテフラン・プロベナゾール粒剤	

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ イネミスゾウムシ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌 約5L) 1箱当り50g	移植3日前 ～ 移植当日	1回	4回以内	2回以内	本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布する

使用上の注意事項

- (1) 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
- (2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3～5cmを保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (6) 本剤を処理した苗の移植水田では、薬害を生ずるおそれがあるので DCPA 剤の使用はさけること。
- (7) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (8) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (9) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (10) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。

(11)本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。